

〔1〕 旧石器・縄文時代

(1) 答え：㉔ 岩宿遺跡

岩宿遺跡は、1946年、考古学者の相沢忠洋によって発見されました。この遺跡の発見により、日本にも旧石器時代に人々が住んでいたことが確実に became ました。

(2) 答え：㉕ 相沢忠洋

㉔：モースは明治時代にお雇い外国人として来日し、1877年に大森貝塚を発見、発掘しました。日本に近代考古学を導入しました。

㉕：野尻湖から出土した太古のゾウの命名者です。

㉖：水戸光圀は江戸時代の常盤水戸藩の第2代藩主です。当時まだ現在のような考古学の概念が無いなかで、侍塚古墳（群馬県大田原市）を発掘しました。

(3) 答え：㉗ 黒曜石

黒曜石はガラス質で、割れた先端が鋭利なため石鏃などに使用されました。同じ黒曜石でも、原産地の違いにより、白っぽいものや赤っぽいものなど、色の違いが見られます。日本国内で黒曜石がとれる場所は決まっているため、石の成分を分析することでどの場所でもとれたものかが分かり、当時の黒曜石の流通を知ることができます。

㉕：香川県や奈良県の二上山が産地として有名です。

ガラス質の石で打ち欠くと薄くはがれます。割れた先端が鋭利なためナイフや、石鏃として使用されました。叩くと「カンカン」と音がするのでカンカン石とも呼ばれます。



サヌカイトの石器

㉖：マグマが冷えて固まった火成岩の一種で、御影石とも

いいます。花崗岩は緻密で硬く、取れる場所が多いことから、古墳の石室や城の石垣、神社の鳥居等に利用されてきました。

(4) 答え：弓矢と土器

地球の温暖化により、日本列島の自然環境が大きく変化しました。イノシシやシカ

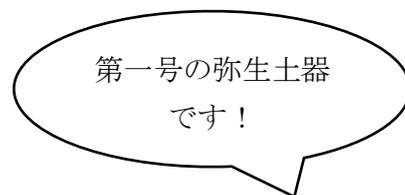
などの中型動物を狩るために弓矢が發明され、ドングリの渋を抜いたり調理する道具として土器が作られるようになりました。このことで、食べ物が保存できるようになり、加熱することにより安全で栄養が豊富なものを食べることができるようになりました。

青銅器と鉄器は、弥生時代に大陸や朝鮮半島から日本列島に伝えられたと考えられています。金属を作るのに専門の知識や技術を持った職人が必要なため、これらを作ったり配ったりできるのは権力を持つ人たちだったと考えられています。金属器を使うことによってより効率的に物事を行うことができるようになりました。

〔2〕 弥生時代

(1) 答え：㉠

明治17年(1884年)東京都向ヶ岡弥生町で最初に発見された赤っぽい土器が地名をとって弥生土器と名づけられ、そこから弥生時代というよび方になりました。



(2) 答え：㉡ 大きく

銅鐸は、時代が進んで新しく作られたものほど大きくなり、弥生時代の後期には1mを越す大きさのものもあらわれます。これは、音を鳴らして使う実用の道具から、ムラのまつりに使う祭祀の道具に変化したためだといわれています。

(3) 答え：㉢ 志賀島

金印は、江戸時代に志賀島で農作業の途中に偶然発見されました。中国「漢」の皇帝から倭国(当時の日本)の王に贈られたもので、国宝になっています。

(4) 答え

ふとがたはまぐり ばせきふ
太形 蛤 刃石斧 — 木を切り倒す

いしぼうちょう
石包丁 — 穀物の穂を摘み取る

すき
鋤 — 土を掘り起こす

弥生時代のはじめ、大陸系磨製石器とよばれるそれまで日本には無かった石器が稲作とともに大陸から伝えられました。主に農具などを作るための木材の加工に使用され、弥生時代のはじめの頃は石器や木製品が主に使われましたが、弥生時代後期ごろ鉄器が普及していくと石器は鉄器へと入れかわっていきました。

(5) 答え：㉞ 銅剣

稲作が開始されると、人々は水や土地を巡って争うようになりました。弥生時代になると、争いによって殺されたとみられる人骨が多く見つかるようになります。青銅器や鉄器などの金属器は大陸から伝わり、後に国内でも生産されるようになります。はじめ武器として使われたのは青銅器ですが、やがて祭りのための宝物へと役割が変わっていきます。

(6) 答え：㉟ 中国のお金

中国「新」の時代（西暦8～23年）に作られた、青銅製の貨幣です。

〔3〕 古墳時代

(1) 答え：㉠

鏡の縁の部分の断面形が三角形になります。鏡面の裏側に中国神話の神様（西王母と東王父）と獣（トウテツという中国神話の怪物）が象られていることから三角縁神獣鏡と呼ばれています。



(2) 答え：㉡ 百舌鳥

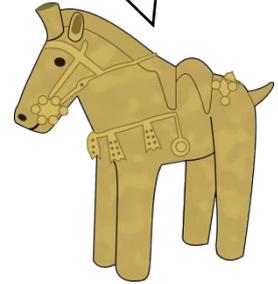
百舌鳥古墳群は日本最大の大仙古墳（仁徳天皇陵）をはじめとした総勢44基の古墳群で、元々は100基以上の古墳が存在していたといわれています。4～6世紀に作られ、半分近い19基が国の史跡、残りの23基も宮内庁によって陵墓（天皇や皇族の墓）などに指定されている一大古墳群です。誉田御廟山古墳（応仁天皇陵）など

を含む^{ふるいち}古市古墳とあわせ、「百舌鳥・古市古墳群」として2019年に世界遺産に登録されました。

(3) 答え：㉟ ウマ

㊦の牛形埴輪も、奈良県^{たわらもとまち}田原本町などで見つけていますが数は少なく、古墳の埴輪のモチーフとして圧倒的に多いのは馬形埴輪です。ウマは個人が所有する「乗り物」であり、権力者にとって自分たちの地位を誇示するのにぴったりの生き物でした。

マタの間を見たらオスメスわかるよ！



(4) 答え：㊦

高温で焼かれ、灰色に硬く^{やし}焼き締められた須恵器は水が^も漏れにくく、液体を保存するのに適していました。一方で何度も火にかけると割れてしまうため、煮炊きには不向きでした。

(5) 答え：㊦ ^{うしくび}牛頸

^{うしくびすえ}「牛頸須恵器窯跡」です。牛頸と名前はつきますが、窯跡自体は牛頸だけではなく上大利から牛頸にかけての^{きゅうりょう}丘陵や山間部に広がっています。

〔4〕 古代

(1) 答え：㉟ ^{はくすきのえ}白村江の戦い

663年、日本と百済が朝鮮半島の^{はくすきのえ}白村江（現在の^{きんこう}錦江河口付近）で唐・^{とう}新羅連合軍と戦い、敗北したのが白村江の戦いです。㊦の^{ぎふ}関ヶ原の戦いは1600年に岐阜県の^{かしの}関ヶ原で起きた、徳川家康率いる東軍と、^{いしだみつなり}豊臣秀吉の家臣である石田光成率いる西軍との戦いです。勝者の徳川家康はその後江戸幕府を開きました。㉟の^{へいけ}壇ノ浦の戦いは平安時代の終わりに山口県下関で起きた、^{げんじ}平家が源氏に負けて滅亡した戦いです。

(2) 答え：㊦ 7世紀の大化の改新の後頃

西暦 663 年に、当時朝鮮半島にあった百済を救援するため現地向かった倭の軍隊は白村江の戦いで唐と新羅連合軍に大敗を喫します。唐と新羅に攻め入られることを恐れて、防衛施設として造られました。

(3) 答え：㉟ 基肄城（佐賀県）

大野城と共に築かれた日本最古の古代山城である基肄城は、1954（昭和 29）年に国の特別史跡に指定されました。㉞ 鬼ノ城は、文献に名前のない神籠石系山城で、1986（昭和 61）年に国史跡に指定、㉟ 屋嶋城は、日本書紀に 667（天智天皇 6）年に築かれたことが記されており、1934（昭和 9）年に国史跡に指定されました。

(4) 答え：㉟ 魔除け

鬼瓦は屋根の棟の端を塞いで飾りつけるための瓦で、鬼の顔には、悪いものを寄せ付けぬ辟邪（魔除け）の役割があるといわれています。大宰府政庁などでみつかるといわれる大宰府式鬼瓦は特に立体的で迫力のある顔をしており、建物の風格を印象付けています。

(5) 答え：㉟ 富本銭

平成 10 年に飛鳥池遺跡で 7 世紀後半の層から富本銭が出土したことで、和同開珎よりもさらに古い貨幣として富本銭の存在が明らかになりました。富本銭のモデルとなったと言われている中国・唐の貨幣が開元通宝です。

(6) 答え：㉟

書かれた顔は疫病神で、病気になった人が自分の使っている土器にその顔を描いて、水に流して災いから逃れようとしたものと考えられています。

(7) 答え：㉟ 大伴旅人

大伴旅人が 730 年に自宅で役人らを招き開催した「梅花の宴」で詠まれた歌が「令和」の由来となったと言われています。大伴家持は旅人の息子。菅原道真是平安時代に活躍した政治家・学者です。